

大阪工業大学大学院

<工学研究科博士前期課程>

2026年度第1回一般入試

解答例

建築・都市デザイン工学専攻

建築学コース

※「建築設計」については、評価において解答プロセスを重視しているため、解答例は掲載していません。

解答

科目 建築基礎学力試験

受験番号	
氏名	

【解答欄 1】

① アフォーダンス	② 中廊下	③ 一望監視システム パノプティコン
④ 聴竹居	⑤ ペリプテロス	⑥ ストックレー
⑦ ニューヨーク New York	⑧ パリ(市) Pais	⑨ ザイデル式
⑩ (直接)昼光率 Daylight Factor	⑪ コージェネレーション システム*	⑫ 9
⑬ 16	⑭ 1	⑮ ブラスト
⑯ 小さい	⑰ 難燃	⑱ 焼入れ

※ 「コージェネレーションシステム」、「コージェネレーション」、「コージェネレーション」、「熱併給発電システム」、「熱併給発電」でも可

【解答欄 2】

1 ×	2 ○	3 ×	4 ○	5 ×
6 ○	7 ×	8 ○	9 ×	10 ×
11 ○	12 ×	13 ×	14 ○	15 ○
16 ×	17 ○	18 ×		

解答用紙 (解答例)

科目	建築計画
----	------

受験番号	
氏名	

問題 1

	名称	特徴 (簡潔に説明)
(a)	接室巡回形式	展示室をつないで観客の動線をつくる形式のこと。動線が単純で面接効率が良い。一室を閉じると使用できない、異なる展示内容の展覧会を同時開催できないというデメリットもある。小規模な展示に向いている。
(b)	ホール接続形式	中央ホールを置き、このホールに各展示室を接続する形式のこと。動線が固定されないため一部の展示室を閉じたり、内容の異なる展示を同時に開催することができたりすることができる。中規模展示に向いている。
(c)	廊下接続形式	廊下を介して展示室を接続する形式のこと。動線が固定されず、一部の展示室を閉じることができるため、展示物や展示室の変化に対応できる。廊下が長くなり面積的に不利になることがある。大規模展示に向いている。

問題 2

(1)

51C 型

(2)

	用語	用語の説明
(ア)	食寝 分離	住宅において食べる場所と寝る場所を分離すること。
(イ)	寝室 (就寝) 分離	子供が親と異なる部屋で別々に就寝すること。

(3)

西山卯三

(4)

今日の集合住宅でよく見られる DK 型平面の原型となった。

問題 3

	名称
(1)	建物を敷地の外周に配置し、中庭方式とした独立住宅のこと。日照・通風やプライバシーなどは確保しやすいが、街並みは閉鎖的になる。
(2)	最初に居住者が集まって組合をつくり、住戸にそれぞれの希望を採り入れて設計する集合住宅のこと。
(3)	全ての教科が専用の教室を持ち、児童・生徒が時間割に従って教室を移動して授業を受ける運営方式のこと。
(4)	事務所建築において総床面積に対する賃貸床面積の割合のこと。
(5)	床下に配線や配管を収納するために床を二重床としたもの。

2026年度 第1回一般入試 解答

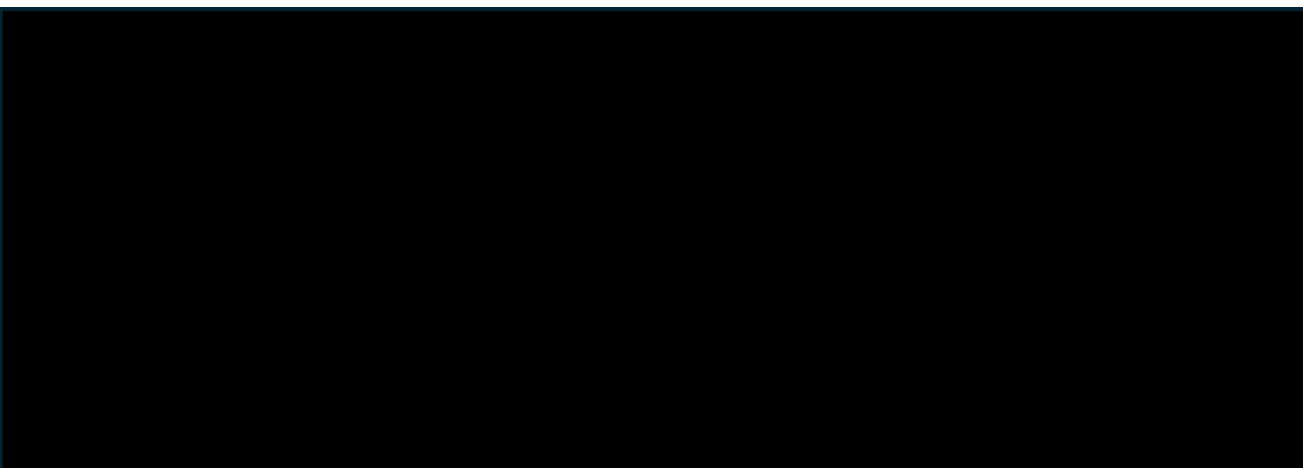
工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 建築学コース

専門科目試験 都市計画

※ 解答は、指定された数の用語を語群の中から選択して、また解答欄のスペースから 300～400 字で簡潔に記述することが望ましい。

【問題 1】

都市計画法に定められる地区計画制度は、一体的な整備及び保全を図るべき地区について、主として地区内の居住者等の利用に供される道路や公園等の施設の整備並びに建築物に関する制限等に関する必要事項を総合的に定め、地区計画の内容に従った秩序ある開発行為や建築物の建築等が行われるように規制し、誘導することにより、良好な居住環境を形成することを目的として創設されたものである。この地区計画は計画の方針と地区の整備計画とで構成される。また、地区計画には、再開発等促進区もしくは開発整備促進区の、いずれかの促進区を定めるタイプや、そのような「一般型」の他に、防災街区整備地区計画、歴史的風致維持向上地区計画、沿道地区計画及び集落地区計画といった4つの特定の目的を持つ種類がある。



【問題 3】

19 世紀に入り産業革命が起ると、工業化が進んだ都市の人口増加と市街地の無秩序拡大が都市計画上の課題となった。これに対してまず声をあげたのが空想社会主義者と呼ばれる人たちである。この影響を受けて、一部の工場経営者は、工場に隣接して良好な住環境を持つモデル・コミュニティを建設した。その後、都市計画論として、エベネザー・ハワードによる田園都市が提唱され、パトリック・ゲデスによる「進化する都市」やカミロ・ジッテによる「広場の造形」等の専門書が出版された。一方、北アメリカでも 19 世紀後半に、公園運動や都市美運動等の都市計画的運動が繰り広げられた。前者では都市内の公園を結ぶ公園・緑地系統も提案された。このように都市問題が世界的な広がりを見せる中、20 世紀に入ると、オランダで都市計画の国際会議が開かれ、大都市の排斥、衛星都市による分散等、7つの決議事項が表明された。

【問題 4】

日本の近代都市計画史は、明治時代とともにスタートする。まず、江戸時代の鎖国がとかれた直後には、外国人のための住居地である居留地が神戸、横浜等につくられた。その後、1872年の東京銀座で発生した大火の後の煉瓦街の建設や、後に国政の中心となる霞が関付近の、1886年から始まった官庁集中計画においても、ヨーロッパの都市計画技術が導入された。1880年頃から、東京の都市構造を改造することが歴代の東京府知事によって提案され、1888年には東京市区改正条例が公布された。一方で、新しい都市の建設が北海道開拓の拠点として札幌で始められた。大正時代に入ると、制度面の確立が求められ、1919年に都市計画法と市街地建築物法が制定され、現在の用途地域等の都市計画手法も制度化された。その後、1923年に関東大震災が勃発し、その復興を担う同潤会が設立された。